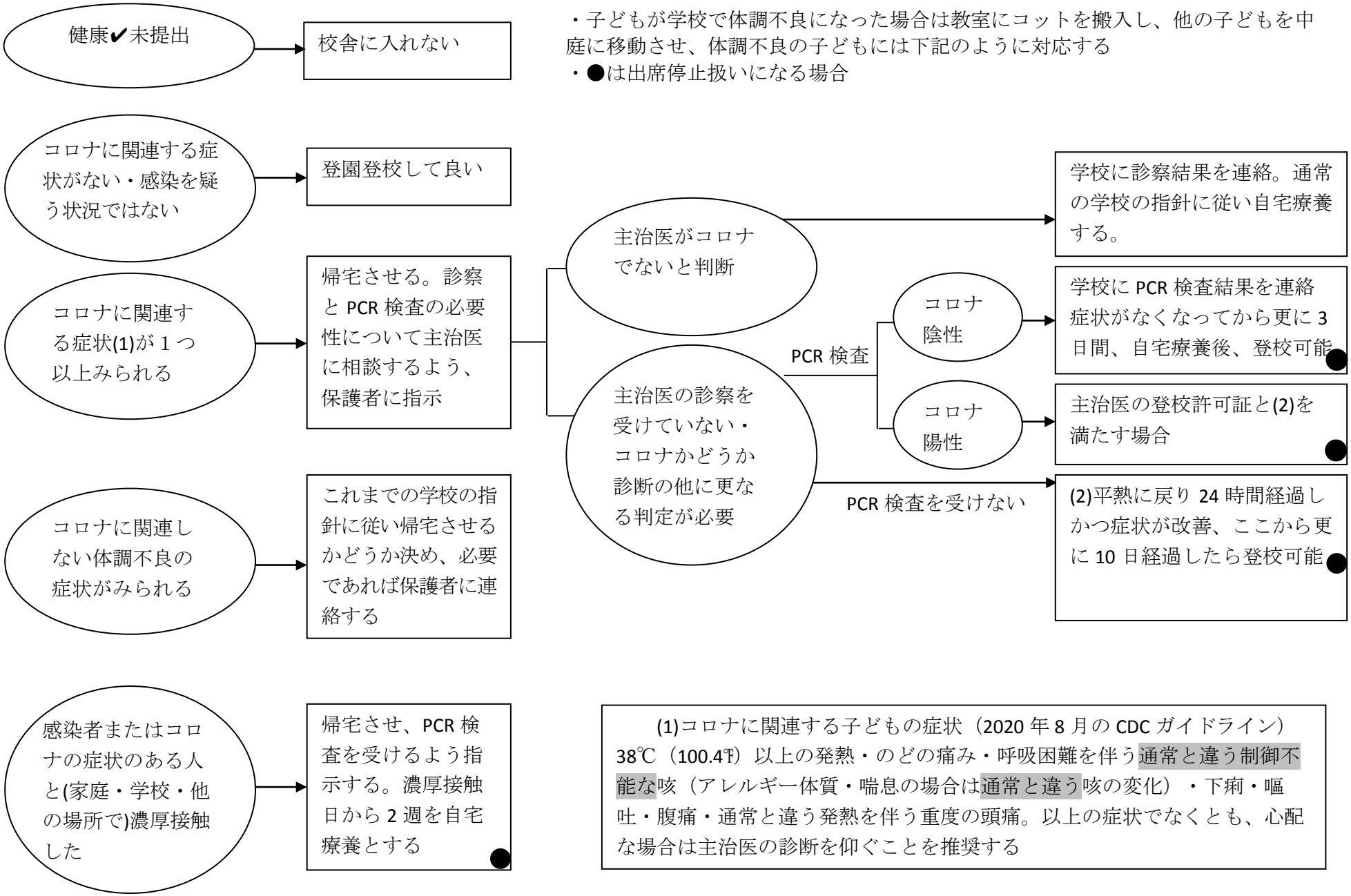
健康スクリーニングと症状がある子どもへの対応

添付資料 1

・子どもが学校で体調不良になった場合は教室にコットを搬入し、他の子どもを中庭に移動させ、体調不良の子どもには下記のように対応する
・●は出席停止扱いになる場合



(1)コロナに関連する子どもの症状（2020 年 8 月の CDC ガイドライン）38℃（100.4℉）以上の発熱・のどの痛み・呼吸困難を伴う通常と違う制御不能な咳（アレルギー体質・喘息の場合は通常と違う咳の変化）・下痢・嘔吐・腹痛・通常と違う発熱を伴う重度の頭痛。以上の症状でなくとも、心配な場合は主治医の診断を仰ぐことを推奨する

学校で接触が起きた場合の濃厚接者への対応

添付資料 2

・濃厚接触者の定義：感染者と 15 分以上、6 フィート以内にいた者・コロナの症状のある者の体液や分泌物に直接接触した者
・●は出席停止扱いになる場合

校内にてコロナの症状がみられる子どもと濃厚接触した者を特定する

下記の症状・状況の子どもと接触
(1)主治医に診察してもらったがコロナでないと確定できなかった場合
(2)PCR 検査を受けていない場合
(3) PCR 検査が陽性であった場合
※ 保護者は学校に連絡をすること

→ 学校は接触者に PCR 検査を受けるよう指示する

PCR 検査 → コロナ陽性 → 主治医の登校許可証と(2)または無症状の場合は陽性が判明した日から 10 日経過するまでは自宅療養 ●

PCR 検査 → コロナ陰性 → 濃厚接触した日から 14 日間自宅療養 ●

PCR 検査を受けていない → 濃厚接触した日から 14 日間自宅療養 ●

濃厚接触者に自宅待機するよう指示し、今後の自宅待機の期間や PCR 検査をするかどうかなどの学校からの指示を待つよう連絡

下記の症状・状況の子どもと接触
(1)主治医がコロナでないと判断した場合
(2)PCR 検査が陰性であった場合
※ 保護者は学校に連絡をすること

→ 学校は接触者に再登校をしてよいと連絡

(1)コロナに関連する子どもの症状（2020 年 8 月の CDC ガイドライン）
38℃（100.4℉）以上の発熱・のどの痛み・呼吸困難を伴う通常と違う制御不能な咳（アレルギー体質・喘息の場合は通常と違う咳の変化）・下痢・嘔吐・腹痛・通常と違う発熱を伴う重度の頭痛。以上の症状でなくとも、心配な場合は主治医の診断を仰ぐことを推奨する